

科目コード	R6004	科目名	臨床運動学				
履修区分	必修	開講期	3年前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	谷岡 龍一						
授業の概要	運動学や運動学実習で習得した正常な身体運動の基礎知識を基に動作分析や歩行分析ができるように、講義を通して理解を深めていく。						
DPとの関連	慈愛ある豊かな人間性と人間を広い領域から捉える教養を身につけている						
	理学療法・作業療法を实践するための専門的知識・技術を身につけている						
	生命の尊厳や人間尊重を基本とする高い倫理観を持ち、自律して行動できる思考力や判断力を身につけている						
	理学療法士・作業療法士として課題を解決しようとする情熱と創意を持っている						
	地域社会・国際社会の一員として、専門職種と協働できる専門知識、コミュニケーション能力を身につけている						
2025年度以降の学則適用者用のDPとの関連を記載しています。2024年度以前の学則適用者は項目順や表現が異なりますので注意してください。 DP：ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	正常な身体運動の基礎知識を基に動作分析や歩行分析ができる						
履修上の注意事項	グループにてレポート作成を実施します。期日や提出忘れなどないようお願いします。 また発表がありますので、あらかじめご了承ください。						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】				事前・事後学修	
	1	序論・姿勢制御のバイオメカニクス【谷岡】				事前：教科書の予習（30分）、事後：授業の復習（30分）	
	2	【1】寝返りの動作分析・症例検討【谷岡】				事前：教科書の予習（30分）、事後：講義の復習（30分）	
	3	【2】寝返りの動作分析に関するグループワーク【谷岡】				事前：教科書の予習（30分）、事後：発表準備（30分）	
	4	【3】寝返りの動作分析の発表【谷岡】				事前：発表準備（30分）、事後：講義の復習（30分）	
	5	【1】起き上がりの動作分析・症例検討【谷岡】				事前：教科書の予習（30分）、事後：講義の復習（30分）	
	6	【2】起き上がりの動作分析に関するグループワーク【谷岡】				事前：教科書の予習（30分）、事後：発表準備（30分）	
	7	【3】起き上がりの動作分析の発表【谷岡】				事前：発表準備（30分）、事後：講義の復習（30分）	
	8	【1】起立・着座の動作分析・症例検討【谷岡】				事前：教科書の予習（30分）、事後：講義の復習（30分）	
	9	【2】起立・着座の動作分析に関するグループワーク【谷岡】				事前：教科書の予習（30分）、事後：発表準備（30分）	
	10	【3】起立・着座の動作分析の発表【谷岡】				事前：発表準備（30分）、事後：講義の復習（30分）	
	11	【1】歩行の分析・症例検討【谷岡】				事前：教科書の予習（30分）、事後：講義の復習（30分）	
	12	【2】歩行の分析に関するグループワーク【谷岡】				事前：教科書の予習（30分）、事後：発表準備（30分）	
	13	【3】歩行の分析の発表【谷岡】				事前：発表準備（30分）、事後：講義の復習（30分）	
	14	【4】歩行の分析（床反力・筋電図・3次元解析などについて）【谷岡】				事後：レポート課題作成（60分）	
15	【5】歩行の分析（床反力・筋電図・3次元解析などについて）【谷岡】				事後：レポート課題作成（60分）		
成績評価方法	レポート課題100% レポート内容：「寝返り・起き上がり・起立・着座・歩行の分析を実際の症例を活用しグループワークにてレポートを作成する。 *グループワークにやむを得ない理由を除き参加していない場合は評価対象外になりますので、あらかじめご了承ください。またレポートの合計が6割に満たない場合、再試験として筆記試験を行う可能性があります。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
	動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践・石井慎一郎（medical view）					978-4-7583-1474-9	
参考書	基礎運動学 中村隆一ほか（医歯薬出版）					978-4-263-21153-3	
教員からのメッセージ	動作・歩行分析は患者さんの動作障害の原因を分析するもので、非常に重要になってきます。この講義にてしっかりと分析力を養って実際の現場で活躍できるよう頑張ってください。						
教員との連絡方法	C-learningをご活用ください。						
実務経験のある教員	回復期の診療経験（脳卒中、整形外科、呼吸器科等）、維持期の診療経験（廃用症候群等）、訪問リハビリの診療経験（特定疾患、慢性疾患等）をふまえ、知見を交えた講義を行います。						